

小地域福祉活動計画策定の手引き



平成27年7月



社会福祉法人 倉敷市社会福祉協議会

1 小地域活動計画とは？

小地域福祉活動計画とは、地区社会福祉協議会（以下、「地区社協」という。）が策定する3年から5年の中期計画のことです。

2 小地域福祉活動計画を作る（策定する）意味、意義は？

地区社協は、毎年、単年度の事業計画をつくり1年間をかけていくつかの事業を実施しています。次の年度も前年度の事業を参考に事業を計画し、実施しています。

地区社協が実施する事業は、「住民運動会の開催」や「三世代交流事業」など、地区の住民全員を対象とした、住民が参加しやすく住民同士のつながりを深めるための交流・イベント型の事業が多くみられます。一方、地区社協の活動が住民に十分理解されていない、コミュニティ協議会と何が違うのか等の意見もあります。地区社協らしい活動とは何か、その答えはどこにあるのか等、地区社協の中でもよく話し合われてきました。

さらに、最近では、急速に少子高齢化が進み、福祉活動についての考え方も変わってきました。介護や子育て支援のサービスも、専門施設や専門職員だけでは解決できない問題が多く、日常の暮らしを身近な地域で見守り支える住民パワーが重要であると考えられるようになりました。

実際に、倉敷市内の各地区でも、高齢者支援センター等が開催する「小地域ケア会議」に地区社協の構成メンバーが参加することによって、専門職員と協力・協働して、地区社協として地域住民のふだんの生活の困りごと、悩みごとなどをとりあげ解決する活動も増えてきました。

活動計画を策定することによって、住民が地域で暮らすなかでの「困りごと」、地域課題の解決に取り組むために、関係者が同じ方向を向いて協働することができます。と同時に、地域の将来像、地区社協の未来を描くこともできます。こうして策定された『活動計画』を公表することで、地域住民のあいだで地区社協への理解が広がり、協力が得られ、地域の連携にもつながっていくことが期待されます。

3 地区社協が目指すものは何か？

地区社協は、小学校区を単位とした住民福祉組織です。取り組む事業も、設立の経緯、コミュニティ組織との関係、地域の特性、地域課題等により異なっています。

地区社協が目指すものは、①住民自らが主人公となって、助けあいや支えあいの精神を育んでいくこと、②地域で暮らす住民一人ひとりの暮らしの困りごと、さらには小学校区や町内会の誰にも共通する過疎・過密・交通・地域環境などの地域課題を話し合い、その解決策を考えること、③構成団体やボランティアが解決に向けて行動することです。生活課題や地域課題を自分たちが取り組み、解決することは住民福祉組織の究極の目標です。

4 困っていること、解決すべきこと（地域課題、生活課題）とは？

私たちの周りには、さまざまな課題や問題があります。子育ての不安、交通量が多い通学路の安全対策、家庭での介護負担に悩む人、一人暮らしになり孤独がち、近所づきあいが疎遠になった、孤独死の不安、空き家が増えてきた、バスの便が減り、車の運転ができないため買い物や通院などの外出が不便、ポイ捨てゴミや犬の糞の放置などマナーの悪化、ボランティア活動者の不足、活動資金の減少・・・。

地区社協が取り組む必要がある地域の解決すべきこととは一体何でしょうか。どうすればそれを知り、解決することができるのでしょうか。「活動計画」を策定する第一歩は、地域の現状、住民の生活の困りごとを知り、分析するところから始まります。

5 課題を知るには？

地域課題、困りごと、解決すべきことを知るには、いくつかの方法があります。

- ① 地区社協の構成組織の役員、ボランティア等が参加した「住民福祉座談会」
- ② 住民アンケート調査／「生活の困りごと調査」
- ③ 団体ヒアリング

※ 小地域ケア会議で話し合われた課題を参考にさせてもらうことも一つの方法です。

6 どのようなことがテーマとなるのか？

住民福祉座談会や住民アンケート調査などで課題、困りごとなどを集める前に、地区社協として、ある程度、何をテーマとして聴きたいのか仮説を立てておくことが大切です。テーマや的を絞らずに聴くと、後でまとめる作業が大変になるだけでなく、対応すること（解決）ができないものをたくさん集めただけになりかねません。

何を聴きたいのかは、地域の特徴、地区社協の歴史等を踏まえて、地区社協の役員のあいだで事前に十分に練り上げたものにするべきです。また、市社協に相談するのも一つの方法です。

7 集まった地域課題、困りごと、意見をどう取り上げていくのか？

「5」によって集められた課題や意見は、それなりの量になります。似たような意見や独創的な意見、批判的な意見、さまざまにものごでできます。その中から、共通する意見や課題、困りごとなどは一つの方向にまとめていく作業が必要です。

まとめていくために検討する過程で、何が求められているのか、何をすべきかがある程度わかってきます。

まとめる方法もいろいろなものがありますが、ここでは住民座談会（本「手引き」では、「ワークショップ」といいます。）による課題の抽出とその取りまとめを通じての情報共有、取り組みの検討について説明します。

8 ワークショップの進め方

まず、地域の皆さんに集ってもらい、日頃感じている困りごとや心配ごとなど、地域の生活課題をカードに書いて視覚化することがワークショップのスタートです。

ここでは出来るだけ多くの課題を出し合うことで課題となる情報を共有し、地区社協として取り組む活動を具体化していくことに繋げていきます。

ワークショップの流れは下記の通りです。

<必要な物品>

- (1) 模造紙（マス目方眼紙 800mm×1080mm）×グループ数+数枚
- (2) ポストイットカード（黄色・桃色・緑色 75mm×75mm 各色1箱（100枚×10個））
- (3) サインペン（黒 35本程度）
- (4) カラーペン（マッキー8色）×グループ数
- (5) マグネットバー（10本）※ 後から前に張り出して発表する際使用するため
- (6) 定規（50cm程度）×グループ数



※ ここで一言！

ポストイットカードを使うのは、後で貼りなおすことができるからです。

⇒一度、体験してみましょう！！

<会場のレイアウト>



① 6名程度ごとのグループを作る

- ・各グループには、黄色・桃色・緑色のカード（人数×10枚以上）、サインペン（人数分）、模造紙（各グループ1枚）を用意します。

② 黄色のカードに「地域で困っていること」や「地域での気になること」などを書き出してもらおう

- ・カード1枚に1つの課題を書いてください。
- ・内容は具体的に書いてください。
- ・カードは出来るだけたくさん書いてください。



③ 各自が書いたカードを模造紙へ貼りだし、グループ内で共有する

- ・カードを貼り出す際には、具体的な説明を加えてください。



ワークショップをする上での4大原則

- 【自由奔放】 意見に制限はありません。思いつくままに書き出してください。
- 【批判厳禁】 人のアイデアを批判、評価してはいけません。
例えば「予算がない」にしても、「予算がないけどどう対応するか」という発想で話を進めて行きましょう。
- 【便乗歓迎】 他の人のアイデアに付けたすことで、発想を広げましょう。
- 【質より量】 より良いアイデアを生み出すために、出来るだけ意見の数を増やしましょう。

④ カードのグループ化

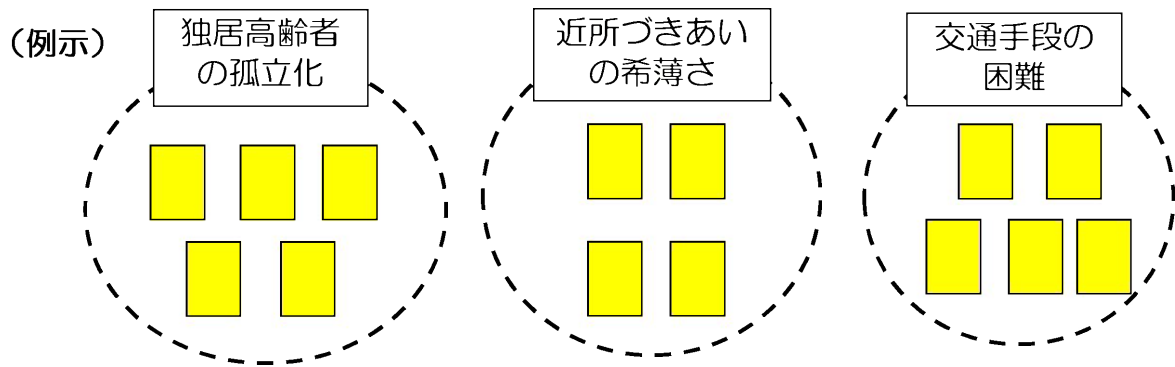
- 似たもの同士のカードを集めてグループ化してください。
- 似たようなものが多い場合（例えば高齢者問題など）は、もっと細かくグループ化してください。
- グループ化するのが難しいカードがあった場合は、書かれた人に主旨を確認してからグループに分けてください。



出てきた意見をグループ化している様子

⑤ グループごとに線で囲ってタイトルを書き込む

- タイトルは「〇〇の〇〇」といったように2つのキーワードを入れると分かりやすいです。



9 整理された地域課題の問題点を検討しよう

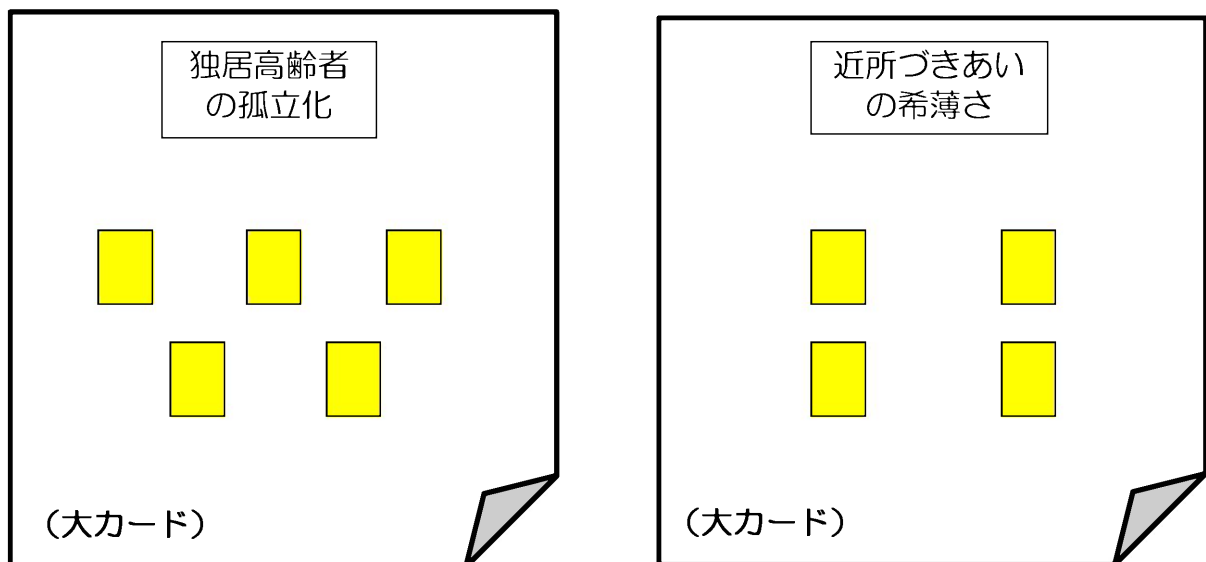
ここまでグループごとに課題を出し合い、似たものをグループ化してきましたが、全体で集約します。

それぞれの課題の原因や解決策を検討することで、地区社協が今後、取り組んでいくべき活動課題が明らかになっていきます。

① 模造紙 1 / 4 の大きさの大カードに、各グループでまとめたカードを移動させます

- ・グループによって違ったタイトルを付けているかもしれませんが、それぞれのカードの主旨がどの大カードに当てはまるか確認しながら移動させてください。

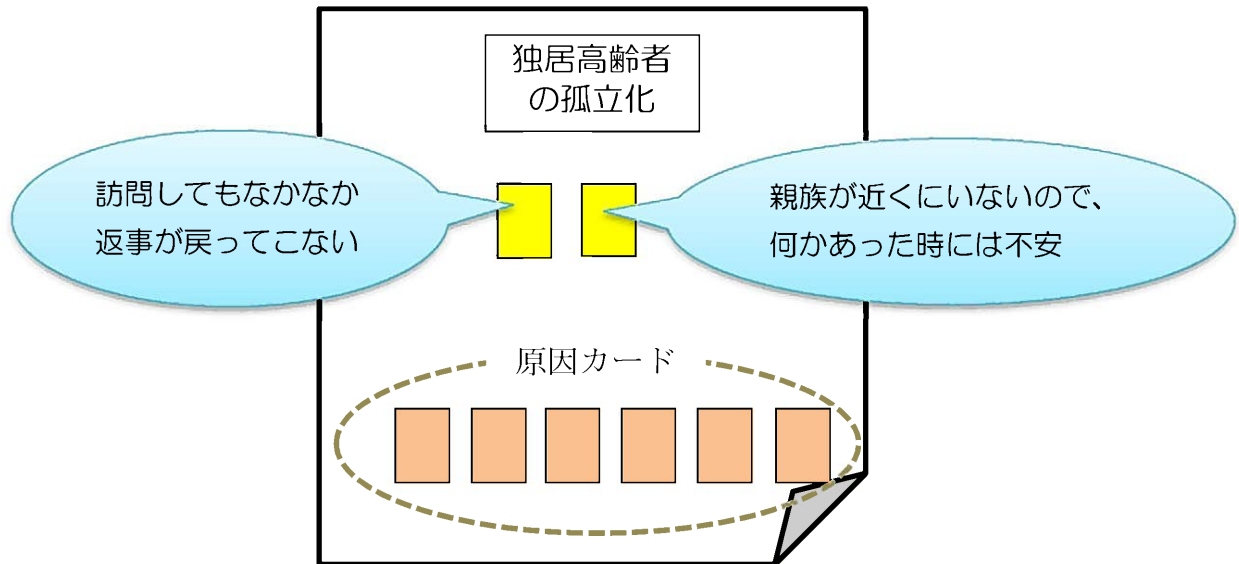
(例示)



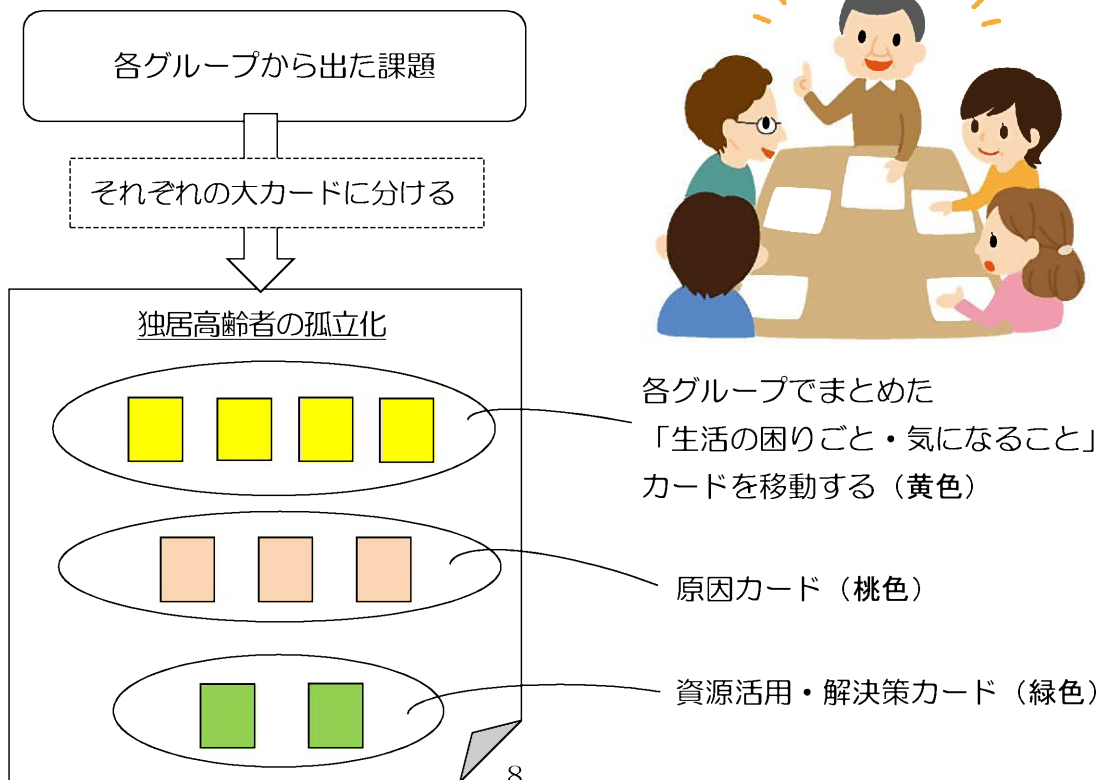
② どのグループが、どのテーマを担当するのか、決めてください。

③ 担当する大カードが決まったら、黄色のカードに書かれた「困りごと」の原因を考えて、桃色のカードに書き出してください。

- 大カードの中をいくつかグループ化し、原因は何か、どうしたら解決できるかを話し合い、そのアイデアをカードに書き出します。
- そのアイデアのカードの中で「特に重要なもの」、「取り組みが急がれるもの」、「すぐに取り組みやすいもの」を選びましょう。



- ④「困りごと」（黄色のカード）と、その原因（桃色のカード）に対して、どのような資源活用や解決策が考えられるか、緑色のカードに書き出してください。
- この解決策が地区社協で取り組むべき活動計画に繋がっていきますので、できるだけたくさん、詳しく書き出してください。



○生活の困りごと・気になることカード（黄色）⇒原因カード（桃色）⇒資源活用・解決策カード（緑色）への展開の例示

生活の困りごと・気になることカード（黄色）	<p>【独居高齢者の孤立化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・閉じこもりがちな独居高齢者が増えた ・訪問してもなかなか返事がない ・親族が近くに居ないので、何かあった際には不安 	<p>【近所づきあいの希薄さ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所の人との付き合いが少ない ・アパートに住んでいる人との付き合いがほとんどない ・地域の活動に参加してくれない
原因カード（桃色）	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者が集える場が少ない ・最近では物騒な事件が多いので、安易に出てくれない ・子どもと同居する世帯が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人と交流する場がない ・若い人は面倒と感じている ・新しく引っ越してきた人とは関わりにくい
解決策カード（緑色）	<ul style="list-style-type: none"> ・ふれあいサロンの開催 ・命のバトンの配付 ・友愛訪問活動 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事の啓発 ・世代間交流の行事の開催 ・あいさつ運動 など

10 具体的な実施計画を考えよう

ここまでで取り組むべき課題から解決策のアイデアが出てきましたが、5年後の地域を見据えて、具体的な計画を考えていきましょう。

地区社協として取り組むべき活動が決まりましたら、下記のような具体的内容についてご検討ください。

なにを（課題）	（例）近所づきあいが希薄になった。
なぜ（原因、理由）	（例）引っ越してきた人とは、接点がない。
活動タイトル	（例）あいさつ運動
誰のために（対象）	（例）住民全体のために
誰が（活動主体）	（例）地区社協の関係者が
どのように <ul style="list-style-type: none"> ・活動方法 ・活動頻度 ・場所 ・費用 ・決めごと ・留意点 	<p>（例）毎日、交代であらかじめ定めた担当者、日程、場所で、通行人に対し、「おはようございます。」と声掛けを行う。</p> <p>（留意点）声掛けの成果を後日、地区社協で話し合う。</p>

具体的に活動内容が決まりましたら、5か年でどのように進めていくのかイメージして各年度の段階的な取り組みになるよう、各年度別の取り組みを設定しましょう。

(スケジュールの例示)

	28年度 (1年目)	29年度 (2年目)	30年度 (3年目)	31年度 (4年目)	32年度 (5年目)
ふれあいサロ ンの開催	2か所以上 設置	3か所以上 設置	4か所以上 設置	5か所以上 設置	交流会や勉強 会の開催
三世代運動会 の開催	—	—	準備のための 話し合い	9月開催	9月開催
評価・見直し	—	—	28・29年 度実績の評 価と見直し	—	—

完成した活動計画を見ながら、下記の点に留意しながら見直してみましょう。

- ① 活動計画は実現可能なものですか？
- ② 中長期的な取り組みになっていますか？
- ③ 各年度の負荷（量などのバランス）が均等ですか？
- ④ 評価や見直しを取り入れていますか？
- ⑤ 必要な財源の確保はできそうですか？



最後に



この手引きは、平成26年度に粒江、上成、沙美の3つの地区社協関係者と市社協の職員、新井先生が力を合わせて取り組んだ計画づくりの過程で得られた知識と知恵をまとめたものです。

計画づくりは、階段を一段一段上っていくようなものです。途中の手順を省いてみても、結局その報いは自分たちに返ってきます。

せっかく作るのですから、自分たちの住んでいる地域をより深く愛せるように手間を惜しまず、納得のいく計画を作りましょう。

困った時は、市社協の職員に相談しましょう。



私たちの小地域福祉活動計画を
ぜひ作ってみましょう！

発行：平成27年7月

編集：社会福祉法人 倉敷市社会福祉協議会

監修：新井 宏（福祉研修みらい創造企画）